

講義名	日本語C (書く)			授業形態	
担当教員	野村 由香里	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

大学ではレポートの作成、また、卒業論文の執筆が必須である。そこで、この授業では論述文の書き方を基礎から学習する。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、論述文に合う文体、文章の要約、また、文章全体の構成、参考文献の書き方等、順を追って学習していく。

到達目標

留学生が大学でレポートや論文を書く際に必要な基礎知識を身に付けられるようになる。

提出課題

授業中に指示

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に個別に指示

評価の基準

授業中の課題点 (60%) 中間・期末テスト (40%)

履修にあたっての注意・助言他

1. 出欠確認は毎回点呼を行う
2. 5 回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない
3. 授業が始まって 15 分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻 3 回で 1 回の欠席となる
4. 15 分以上の遅刻は欠席とみなす（授業は受けてもよい）
5. 授業時には辞書を携帯すること

教科書

. 使用しない。

参考図書

. 小論文への12のステップ。 友松悦子 スリーエーネットワーク 1600 9784883194889

その他

『大学で学ぶための日本語ライティング』 佐々木理枝他著、The Japan Times 2006 ISBN4-7890-1221-2
『留学生のための論理的な文章の書き方』 二通信子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-68319-257-1 C0081

授業計画

1. 授業内容や評価などの説明 / 表記の仕方1
2. 表記の仕方2
3. 文体
4. 話し言葉と書き言葉
5. 小論文によく使われる表現
6. 段落
7. 要約文を書く1
8. 要約文を書く2
9. 中前期理解度試験の実施及びその解説
10. 意見文を書く1
11. 意見文を書く2
12. 事実を示す方法
13. 引用の表現
14. 小論文のはじめとおわり / 参考文献の書き方
15. 総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習（90分）
その日に習う事柄に一通り目を通し、分からない言葉があれば調べておく。
復習（150分）
その日に学習したことを、もう一度復習し課題を行う。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に關与している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考